

2004年10月19日

報道用資料**ハイブリッドカーとランフラットタイヤに、自動車ユーザーは強い関心****2004年日本自動車先進技術調査**

CS（顧客満足度）に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社 J.D. パワー アジア・パシフィック（本社 東京都港区、蓮見南海男社長、略称 J.D. パワー）は、2004 年日本自動車先進技術調査の結果を発表した。

当調査は、自動車先進技術に対する日本の消費者の認知度、興味度および購入意向について調査するもので、今年が3回目の実施となる。今回の調査は、ハイブリッドカー、ランフラットタイヤ、リアシート・エンターテインメントシステム、ワイヤレス接続システム、フロントガラス用先進クリーニングシステム、ブレーキ・バイ・ワイヤ、ヒート/クールシート、車外サラウンドセンサー、車両姿勢制御システム、ドライバー認識システムを対象としている。

調査対象者は、過去6年以内に新車を購入またはリースした一般の乗用車ユーザー（軽自動車を含む）で、9,199人から回答を得た。なお、米国と欧州についても同様の調査が実施されている。

ハイブリッドカーへの関心がより一層高まる

今回の調査結果から、調査対象となった自動車先進技術の中で、ハイブリッドカーとランフラットタイヤが日本の乗用車ユーザーから高い関心を集めていることが明らかになった。

最も高い認知度を獲得したのはハイブリッドカーで、回答者の40%が「よく知っている」と答えている（2003年比10ポイント増）。また、興味度でも調査対象テクノロジーの中でトップとなっており、回答者の68%が「（同機能を）装備するかもしれない」もしくは「（同機能を）必ず装備する」と答え、すべての年代および車両セグメントユーザーから高い関心を集めている。

ランフラットタイヤ、市場拡大に高い可能性

一方、ランフラットタイヤは認知度が低く、「よく知っている」と答えた人は7%に過ぎない。しかし、安全性を高めるテクノロジーであるランフラットタイヤへの興味度になると66%と高くなる。また、購入意向について尋ねたところ、一般的なタイヤ（4本分）の市場価格に3万円多く出しても、次回新車購入時に「必ず装着する」もしくは「装着するかもしれない」と答えた人は56%

に達した。このように現実的な市場価格を提示した場合でも回答者の半数以上が装着したいと答えていることから、ランフラットタイヤの受容性は高く、市場拡大の可能性の高いテクノロジーであるといえる。

安全性を高めるテクノロジーへの関心、40歳以上で高まる

ブレーキ・バイ・ワイヤ、車両姿勢制御システム、車外サラウンドセンサーなどの安全性を高めるテクノロジーに対する興味度は、若年層よりも40歳以上の年齢層で高い。これに対して、リアシート・エンターテインメントシステムやヒート/クールシートといった快適性・利便性を高めるテクノロジーでは、40歳未満の年齢層で関心が高くなっている。

自動車ユーザーが先進テクノロジーに対してどの程度認知し関心を持っているのかを理解し、その情報を技術開発や市場導入戦略に活かすことが、今後自動車メーカーや部品メーカーにとってますます重要となるとJ.D. パワーでは考えている。

<株式会社J.D. パワー アジア・パシフィックについて>

当社はJ.D. パワー・アンド・アソシエイツ（略称 JDPA、本社米国カリフォルニア州）の日本を含むアジア地域でのビジネスの拠点として、1990年に設立された。自動車業界を始めコンピューター、通信関連、OA 機器、サービス産業、金融など様々な業界において顧客満足に関する調査やコンサルティングを実施している。インターネット上でホームページを開設しており、会社概要や提供しているサービスなどの情報を次のアドレスで入手できる。

J.D. パワー アジア・パシフィック ホームページ <http://www.jdpower.co.jp>

<当調査に関するお問合わせ先>

(株)J.D. パワー アジア・パシフィック

コーポレート・コミュニケーション・グループ 川野

住 所： 東京都港区虎ノ門5-1-5 虎ノ門45MTビル（〒105-0001）

電 話： 03-3459-1865

F A X： 03-3459-1810

e-mail： mkawano@jdpower.co.jp

<ご注意>

本紙は報道用資料です。(株)J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く本資料に掲載されている情報および結果を広告または販促活動に転用することを禁止します。

2004 年日本自動車先進技術調査で取り上げたテクノロジー (英文表記アルファベット順)

フロントガラス用先進クリーニングシステム(Advanced Windshield Cleaning System)

ボタン一つでウォッシャー液を急速に温めることができ、寒い季節にはフロントガラスに積もった雪や霜をすばやく除去することができ、暑い季節には泥、虫、樹液、鳥の糞などのこびりついた汚れを取り除くことを可能とするテクノロジー。

ブレーキ・バイ・ワイヤ(Brake-By-Wire)

ドライバーのブレーキ操作を電気信号に変えて制御力をコントロールするテクノロジー。従来の複雑なブレーキの配管や機械的作動部分、ブレーキ液(ブレーキの作動油)そのものが不要となり、ブレーキペダルの踏込む力や感触を改善し、効率よく短い距離で停止することを可能とする。

ドライバー認識システム (Driver Recognition System)

指紋、音声、顔面形状認識あるいは電子暗証コードを登録したり、リモコンキーあるいはインテリジェントIDカードなどでドライバーを識別し、ミラーやシートの位置、ラジオ局選定などそのドライバー固有のセッティングに、自動的に設定するテクノロジー。

車外サ라운드センサー(External Surround Sensing)

車の周辺環境を各種センサーで監視し、ドライバーに障害物や危険を警告するテクノロジー。高速道路走行中に意図せずに走行車線からはみ出した場合や、車線変更時に車両の死角に他の車が存在していること、車両をバックする際の障害物があることなどを警告する。

ヒート/クールシート(Heated/Cooled Seats)

シートにヒーター/クーラー機能を内蔵し、気候に応じて暖めたり冷やしたりすることでドライバーや助手席乗員に快適性を提供するテクノロジー。シートの温度は10 (クールモード)から50 の範囲で調整が可能で、使用者の疲労を軽減するように背もたれと座面の両方の温度を調整する。

ハイブリッドカー(Hybrid Electric Vehicle)

ガソリンエンジンと電気モーター、2つのパワーを組み合わせたテクノロジー。エンジン動力は車輪の駆動と発電に利用され、発電した電気はモーターを回して走行を補助し、バッテリーの充電も同時に行う。充電の必要はなく、燃費は通常ガソリン車に比べ50%向上が見込まれる。

リアシート・エンターテインメントシステム (Rear Seat Entertainment System)

リアシートの乗員用にモニター画面が設置され、TV や DVD などの映像を視聴したり、家庭用ゲーム機を接続してゲームなどを楽しめるテクノロジー。

ランフラットタイヤ(Run-Flat Tires)

タイヤの空気圧がゼロになっても自宅やガソリンスタンドなどタイヤを修理・交換可能な場所までの限られた距離を走行可能にする特殊タイヤ。たとえば、パンクした状態で時速80キロメートルで200キロメートル程度の走行を可能とする。

車両姿勢制御システム(Stability Control)

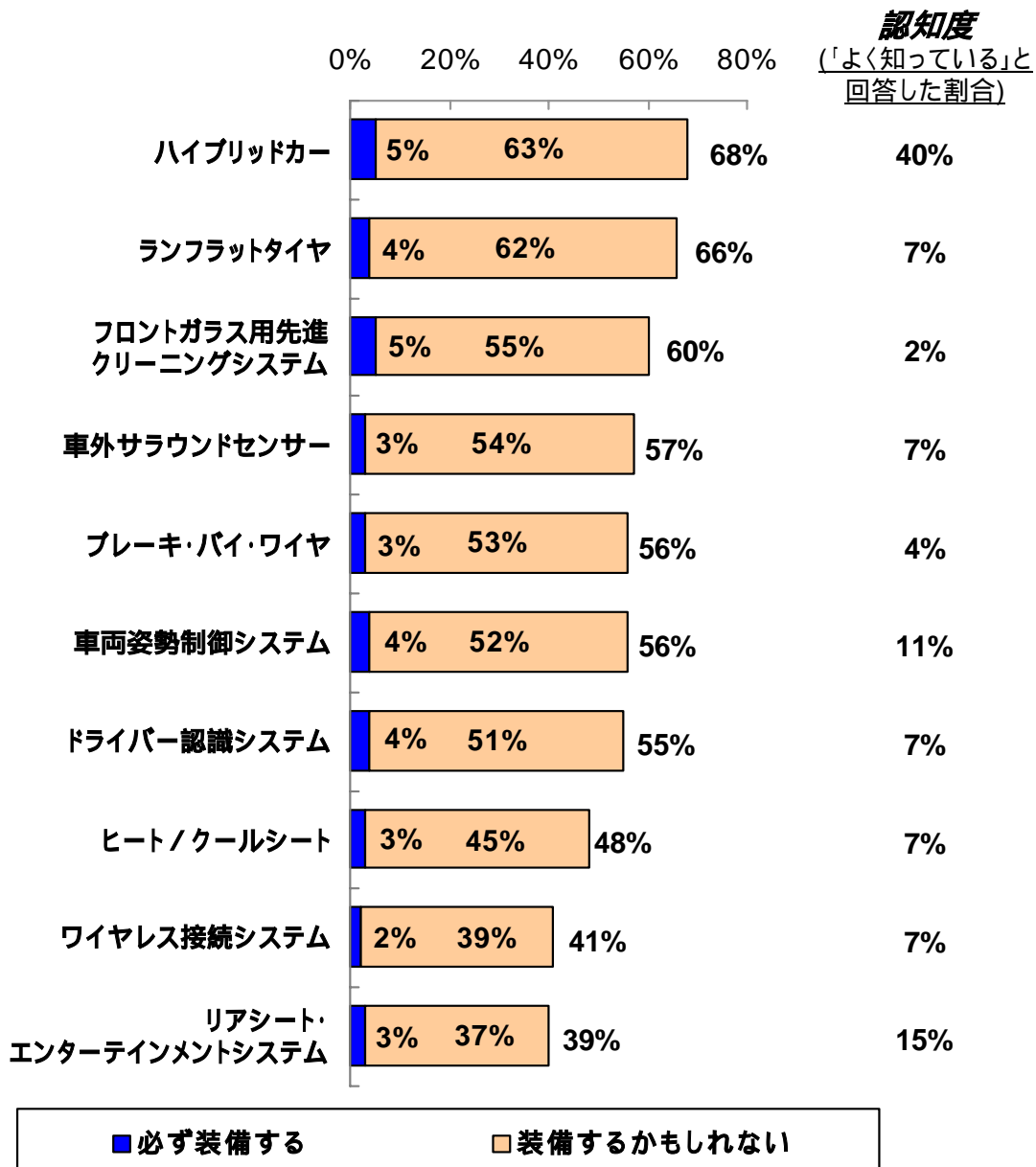
急なハンドル操作や滑りやすい路面でドライバーが車両のコントロールを失いそうになるのを感知し、車両の姿勢をドライバーの意図する方向に自動的に修正・制御するテクノロジー。

ワイヤレス接続システム(Wireless Connectivity System)

携帯電話、PDA、ノートパソコンなどの携帯端末と車両側のシステムをワイヤレス(無線)接続できるテクノロジー。また、このテクノロジーを使って、ノートパソコンのデータを車両のナビゲーションシステムに移したり、自宅やマンションのゲートを車内から開閉操作したり、車内でインターネットの接続なども可能にする。

J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM

テクノロジーへの興味度



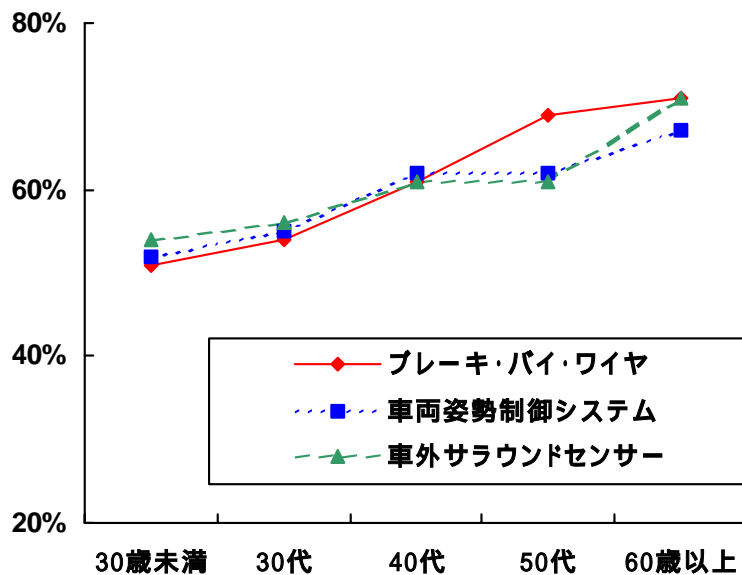
出典: J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM

本紙は報道用資料です。J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。

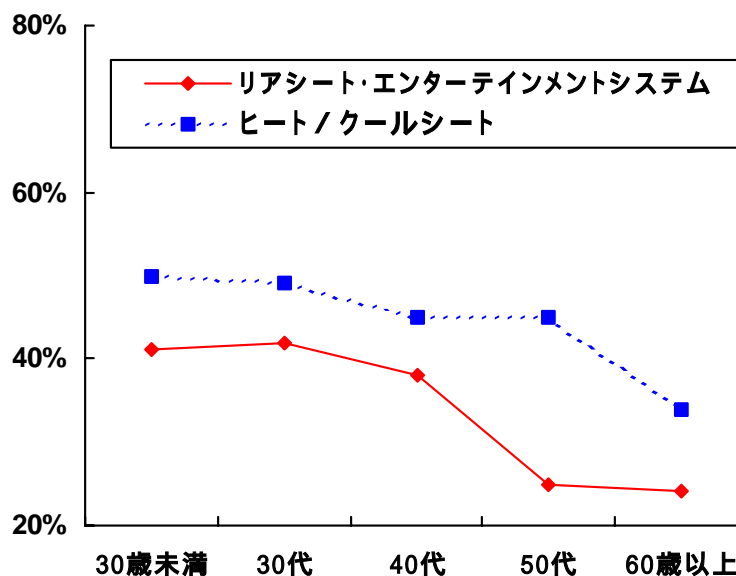
報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、調査レポート発行者および出典(J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM)を明記して下さい。

J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM

安全関連テクノロジーへの興味度



快適/利便関連テクノロジーへの興味度



出典: J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM

本紙は報道用資料です。J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。

報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、調査レポート発行者および出典 (J.D. パワー アジア・パシフィック 2004年日本自動車先進技術調査SM) を明記して下さい。